

思春期の子どもへの接し方

思春期の子どもは親に対して生意気で反抗的な態度をとりがちなので、親の方も子どもに対してますます高圧的になりがちですが、これでは親子関係を悪化させるばかりです。親は一段高い見地から、これは自立する過程だと大らかに受け止める度量が必要です。

子どもが自分の意見を主張し出したら、たとえ未熟ではあっても自分の意見・考えを持つまでに成長したのですから、その芽を励まし伸ばすつもりで子どもの話は聞いてあげてください。自分で考える力や主張する強さがついてきたのですから、親の考えを与えるのではなく、「あなたはどう思うの？」と常に子どもに問いかけるようにするといいでしょう。

あと、この時期の子どもは非常にナイーブで傷つきやすいなので、「較べること」や「容姿や能力に関する評価」は慎んだ方がいいでしょう。

何を言っても反抗的な態度や無愛想な態度を取られると、親の方も「もう勝手にしなさい！」と突き放してしまいがちですが、「口を出す」→「ケンカになる」→「突き放す」といった一連のパターンにはまり込むのではなく、出来るだけ口出しは控えて、そっと見守る愛情で関わるとうまくいきます。信じる、任せる、見守るといったことも親の愛情であり、口を出すばかりが親の愛ではありません。

以下に思春期の子どもへの接し方を載せておきますので参考にして頂ければ幸いです。

< 思春期の子どもへの接し方 >

- 1、親の考えを押しつけない。正論で言い負かさない。
- 2、決めつけない。頭ごなしに叱らない。
- 3、兄弟や親戚、同級生と較べない。
- 4、子どものいい所を見る。
- 5、「口を出す」愛情ではなく、「そっと見守る」愛情を持つ。
- 6、「勉強しなさい」等、上から命令口調でものを言わない。
- 7、強制・管理したりせず、ゆっくりくつろげる家庭にする。